

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院1072-1
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康を保ち楽しんで生活をしていただけるよう週1~2回体操と音楽、ゲームを取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から7年を経過し、利用者・職員共に落ち着いた生活を楽しんでいる。利用者の3分の1が男性であることも、落ち着いた雰囲気をつくっている要素の一つと考えられる。建物の一部にデイサービスセンターを併設しており、利用者の出入りもあって開放感がある。協力医療機関から月2回の訪問診療を受けており、健康管理の面で安心感がある。また、終末期におけるケアの明確な指針と、医療機関との連携体制があり、終の棲家として信頼できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの家

(ユニット名) 根っこ

記入者(管理者)

氏名 松田 和恵

評価完了日 21 年 10 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指して地域で行なわれる様々な行事に参加し理念に基づけるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 平成21年度、職員全員を対象に行ったアンケートから、新たに『私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、「穏やかで安心感あふれる充実した生活」をおくる事ができるようサポートします。』というホーム独自の理念をつくり、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) グループホームではバザーを開催、地区の住民の方々をお呼びする。又納涼祭を開くなどし、楽しい交流を深めている。</p> <p>(外部評価) ホームのバザーや納涼祭には近所の方に声をかけ、訪問してもらっている。自治会の組長や民生委員の協力により地域の盆踊り大会に参加した際には、夕食を一緒に食べる席を設けてもらった。中学校の演奏会や運動会にも声をかけてもらい参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 納涼祭の折の見学や、地区の中学生の研修の場として、毎年認知症の方々と中学生のコミュニケーション作りの場としても活かされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を開催する。又は利用者さんへのサービス場面として夏場納涼祭を開く。又、近々芋炊き会を開く等取り組んでいる。	
			(外部評価) バザー、夕涼み会、いもだき等のイベントに併せて開催するなど工夫しているが、話し合いの時間が少ないため、そこで出た意見をサービスの質の向上に反映させるまでには至っていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいるが今後さらに進めるべきである。	
			(外部評価) 書類の提出時などの機会を通じて市担当者とは顔見知りの関係にあるが、相談や情報交換は主に運営法人を通して行っており、良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者さんに危険が及びそうな時には止むを得ず施錠をする事はあるが一時的である。夜間店頭の恐れがある時ベッド柵を使用する等のご家族への同意を得使用するが一定期間である。	
			(外部評価) 身体拘束にあたる具体的な行為について十分認識しており、勉強会も行って共有している。ベッドから転倒する危険性があると思われる場合には、ミーティングで検討し、家族の同意を得た上で時間や期間を決めてベッド柵を使用するなど、状況に合わせた支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は思いやりの心を持って利用者さんに接しており徹底して注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホームでは制度を活用している。利用者はいないが今後学ぶ機会が必要である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を基に十分に説明を行いご理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんからのご意見は常にミーティングに掛けており、又、ご家族さんからの意見も機会あるごとに間接的に職員に反映させている。 (外部評価) 家族の来訪時には積極的に声をかけたり、運営推進会議や家族アンケートなどで希望を聞き取るようにしている。毎月家族等に手紙を出すことで、意見や要望を気軽に言いやすい信頼関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎週管理者会議を開催、細かい職員の意見も反映させている。	
			(外部評価) 月2回の管理者会議で職員の意見を取り上げて検討し、業者の選定や駐輪場の照明設置等、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の働きやすい環境づくりに努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の機会は常にありできやすいよう配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会への参加をする等取り組みと交流を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人が安心して生活していけるようお話を聞く機会を多く持ち関係作りに努めていく。又、フェースシートを作成し職員間で共有していく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の不安である事柄ご要望などに深く耳を傾けつつ数回の面談を持ち信頼関係を築いていく。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今できる範囲のことで最大限のことを考慮にいれ対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として家庭人としての生活暦を大切にしていき教えを請いながらも支えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人と家族との中間的立場を意識し関係性がうまく保てるよう調整しつつ共に本人を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人の馴染みの場所を訪れてみる。故郷へのドライブなど今後さらに考慮に入れたい。	
			(外部評価) 利用開始前からの友人・知人との馴染みの関係を継続する工夫として、手紙を出したり、電話をかけたたり、ホームに訪ねて来てもらう等の取り組みをすすめている。以前からの趣味も引き続きできるよう支援している。ドライブを兼ねて馴染みの場所やふるさとへも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係性が思わしくないと思われるときは間に立ち調整する。又、コミュニケーションが上手く取れるよう楽しみを共有機会作りをする。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今後も相談等あれば対応に努める。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご希望は組み入れながらある程度まで本人本位となるよう検討している。 (外部評価) 利用開始時に生活歴等について十分なアセスメントを行い、利用者の希望などを家族からも度々聞くようにしている。日頃から利用者に寄り添い、会話やふとしたしぐさからも思いを読み取るようにしている。個々の気づきを介護記録などに記録することで職員全員が情報を共有できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の生活歴を大切にしつつ馴染みの家具や道具を使っただけサービス利用の経過把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 夜間の巡回朝のバイタルチェック心身状況の把握をする。ユニット内の日常的な片付け等、できることをできる方にやっていただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護保険の更新の時期に伴いケアプランを新しく作成、三ヶ月毎の見直しを行ないご家族のご意見を考慮に入れつつ作成している。	
			(外部評価) 毎月ユニット会議でモニタリングをしている。職員が担当する利用者について具体的な介護計画の案をつくり、職員全員で検討して、家族の確認を加えて3か月ごとに新たな介護計画を立てている。また、日々の記録を介護計画の評価に結びつける工夫等についても検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を介護記録に記入共有する。又、毎日のミーティングの時間問題となった事を情報として共有し実践に繋げる。又、介護計画を見直していく。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状況に応じ必要となったとき宿泊していただく等している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防隊の協力を得て避難訓練を行なう。運営推進会議でその事について話し合いをするなど協力できおり豊かな生活作りができるよう支援していく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回の訪問診療をしている。以前からかかりつけへ の受診をされている。 (外部評価) ほとんどの利用者が、かかりつけ医を協力医療機関に 移行している。利用者全員が月2回の往診を受けてお り、服薬指導も同時に受けている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調に変化があればバイタルサインチェック後看護師 に連絡し指示を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) お互いにサマリーを作成し交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族とかかりつけ医ケアマネジャーと相談を何度と なく行なっている。 (外部評価) 丁寧な指針をつくり、利用開始時に十分説明して了解 を得ている。また、必要時には医師を交えて家族と話 し合い、方針を共有しながら取り組んでいる。職員も 不安にならないよう話し合いや学習を繰り返し、利用 者が動揺することのないよう注意を払っている。今年 度は2人の看取りを行った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 個人別緊急対応のリストを作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署から消防士が来られ訓練を行なっている。 (外部評価) 消防署の指導による避難訓練を実施しており、スプリンクラーも設置している。地域の協力を得られるよう連絡網を作成しているが、具体的な協力体制については現在検討中である。	昼だけでなく夜間を想定した避難訓練を実施したり、誘導避難について具体的にシュミレーションをすることや、地域の方の参加を得ての訓練実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個室にてドアを閉めるよう心がけ更衣を行っている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損うことのないよう、声かけや言葉遣いには十分気をつけている。居室への入室や、入浴・排泄時等には特に配慮している。個人記録や重要書類の取扱い、機関誌に掲載する写真や個人情報にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 衣類等声掛けをしながら選ぶよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自室で過ごしたい日は自室で、テレビを見たい日はそのように。やりたい事がある方にはこちらのプログラムは無理強いせず自分流の方法で過ごしていただく為に見守りをしていく。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、洗面、口腔、整髪、衣類の本人の希望を聞き着ていただき感想を伺う。鏡を見ていただく。女性の方へはおしゃれに関する話をし感想を聞く。皆さんに自分でできる範囲の身だしなみはやっていただく。きれいになっていく喜びを分かち合う。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの食事を聞いていく。食べたい物の希望をメニューに取り入れる。調理の準備を危なくない範囲でやっていただく。皆さんと一緒に食事をいただく。準備や片づけ等それぞれ分担してやっていただき、お互いに助け合ってやっていく。女性の方は皆さん上手にやっていただける。 (外部評価) ユニットごとに好みに合わせた献立をたて、材料を前日に注文して配達してもらっている。一人ひとりの力を活かして下ごしらえや配膳、片付けなどを手伝ってもらっている。刻み・とろみ食等の方にも、メニューを意識できるよう声をかけながら一緒に食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量の足りない方へは一日4回5回に分けて決めた水分量を飲みやすいようトロミ付きにしたりゆっくりと話をしつつ摂っていただく。食事量の少ない方の場合には補助食品で補う。血糖値を計り数値にあわせて量の調整をしていく。夜間の水分補給にも気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方へはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔を促す。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間を空けてトイレ誘導を行う。トイレへ行きたいサインが見られた時のすばやい誘導、汚染オムツ、パット類の早い処理をする。本人の意志の確認後排泄を促しトイレ誘導し排泄の有無を待つ。	
			(外部評価) 時間を決めて声かけや誘導をして、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。利用者の状態に合った紙パンツやパットを適切に使用できるよう援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品の食品や、便秘に良いとされる野菜類を食事に取り入れる。水分補給を行う。本人の負担にならないようにレベルに合った運動を一緒に行う。2日3日排便のない場合は緩下剤を服用していただく。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 家族の面会の時間は避ける。外出予定日の前日に入浴をしていただいて外出の喜びを味わっていただく。予定日をお知らせし待つ楽しみを味わっていただく。	
			(外部評価) 週に2～3回を基本としているが、個々の希望に応じて毎日でも入浴できるよう用意している。入浴時はゆっくりと気持ちを開放できるよう配慮しており、職員と本音の話ができる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調の具合や寒がり暑がりの方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度の夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促し又の楽しみを話し語り合う。就寝前のトイレ誘導をする。水分補給をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時の処方が変わった時には服薬ノートを記入する。職員に申し送りをする。誰が見ても間違いがなく判り易いセットの仕方を工夫している。症状の変化の有無を常に話し合っていく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調を見ながらお願いをし達成感を感じていただいている。続けてお願いをしていると自然に自然に手伝いをしてくださるなった。話をしながらの作業は気分転換にもなっていると思われる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月一回なるべく全員で出かけられるよう外出計画を立てている。毎年恒例の場所への外出もある。毎月一回は季節を感じられる場所への計画をしている。希望があればご家族の同行も行っている。	
			(外部評価) 鯉のいる池や藤棚がある近所の公園に、希望があれば散歩に出かけている。家族の協力も得ながら全員で外出行事も実施している。季節の花を見たり、スーパーで好きなものを購入するなど、利用者の希望に添えるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 特に普段は現金を使う事は無いが、外出された場合は買い物を楽しみにされるため持参される。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望がある場合は行なっていただく。文字が書けない場合は代筆する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしていく。廊下や居室等に季節の花を飾る。壁飾りを作っている。2日に1回は掃除機をあてきれいにする。</p> <p>(外部評価) 建物は企業の社員寮を改造したものであるが、廊下到手摺りを取り付けて生活リハビリに活かせるよう工夫したり、狭いキッチンで調理が難しいところはデイサービスの厨房を利用するなど、活用できるところを有効に活かして、利用者にとって充実した日々が過ごせるよう配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングで過ごされる場合、自分の席に座っていただく。廊下にソファを置き休憩の場所を作っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるものでそろえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 写真、大切な人との思い出の品物、趣味の品、長年使ってきた物など、利用者にとって大切なものを思い思いに持ち込み、本人が居心地良く過ごせる居場所をつくっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自立度の高い方へは居室内は畳を敷いているが、車椅子の方は転倒の危険を考え畳を敷いている。流しはお湯が出ると火傷の危険があるため水のみで使用してもらって。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院町1072-1
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護職員を充実させ、住み慣れた場所で、見慣れた職員に最後まで安心できるようお世話いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から7年を経過し、利用者・職員共に落ち着いた生活を楽しんでいる。利用者の3分の1が男性であることも、落ち着いた雰囲気をつくっている要素の一つと考えられる。建物の一部にデイサービスセンターを併設しており、利用者の出入りもあって開放感がある。協力医療機関から月2回の訪問診療を受けており、健康管理の面で安心感がある。また、終末期におけるケアの明確な指針と、医療機関との連携体制があり、終の棲家として信頼できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの家

(ユニット名) 葉っぱ

記入者(管理者)

氏名 松田 和恵

評価完了日 平成21年 10月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者の方々にその人らしい生活を大切にし、穏やかな安心した生活を送っていただいております。又、地域の方々にも協力していただき、常にイベントなどお互いに共有していると思います。</p> <p>(外部評価) 平成21年度、職員全員を対象に行ったアンケートから、新たに『私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切にし、「穏やかで安心感あふれる充実した生活」をおくる事ができるようサポートします。』というホーム独自の理念をつくり、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所だけの生活ではなく、イベント、運動会などにも参加しており地域の方々と楽しく交流をさせていただいております。常に気にかけて下さり声をかけていただけるので交流が十分に出来ていると思います。</p> <p>(外部評価) ホームのバザーや納涼祭には近所の方に声をかけ、訪問してもらっている。自治会の組長や民生委員の協力により地域の盆踊り大会に参加した際には、夕食を一緒に食べる席を設けてもらった。中学校の演奏会や運動会にも声をかけてもらい参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症への理解をしていただけるように地域への触れ合いを大切にし、グループホームへの理解をしていただけるように中学生に社会体験や見学などを行っております。又、ホーム内でのイベント行うことにより地域の方々にも来ていただき理解や支援に努めています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域への理解を深めるためにバザーを行っており事業所内の様子をいただけるよう努めております。頻繁には開催していませんがご家族や近隣の方々のご意見を反映するよう努めています。	利用者の現状を理解してもらうことを大切にしながら、2か月に1回の開催ごとにテーマを設定し、情報交換を行い、利用者へのサービスの質の向上につなげていくことを期待したい。また、構成メンバーにも地域のキーパーソンを加えていくことが望ましい。
			(外部評価) バザー、夕涼み会、いもだき等のイベントに併せて開催するなど工夫しているが、話し合いの時間が少ないため、そこで出た意見をサービスの質の向上に反映させるまでには至っていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 病院受診時に地域連携室を利用したりグループホーム内でイベントを行う際等はお知らせをしてホームでの取り組みや様子を見ていただくようにしています。	
			(外部評価) 書類の提出時などの機会を通じて市担当者とは顔見知りの関係にあるが、相談や情報交換は主に運営法人を通して行っており、良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をせずその人らしい生活を大切にし、穏やかで安心のある生活を送っていただいています。その上で常に安全に気をつけて確認をしています。夜間のみ防犯のためエント入り口に施錠をしています。	
			(外部評価) 身体拘束にあたる具体的な行為について十分認識しており、勉強会も行って共有している。ベッドから転倒する危険性があると思われる場合には、ミーティングで検討し、家族の同意を得た上で時間や期間を決めてベッド柵を使用するなど、状況に合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会等に参加し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会や説明会に参加し必要であれば活用したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 通達文書を作成し十分説明し家族の不安や要望を聞き満足していただき納得してから契約や解約に応じている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 目安箱を置いて家族、職員の意見や要望を書いてもらっている。イベント時等の機会を利用して運営委員会を設けご家族等の意見をいただける場を設けたりしている。 (外部評価) 家族の来訪時には積極的に声をかけたり、運営推進会議や家族アンケートなどで希望を聞き取るようにしている。毎月家族等に手紙を出すことで、意見や要望を気軽に言いやすい信頼関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 運営が滞りなくスムーズに行っていけるように人員の確保やシフトに関する提案や希望等日ごろからショートミーティングやエグゼクティブ会議で行っている。会議の場を設けて意見や提案等をいただいで活かせる様にしている。</p> <p>(外部評価) 月2回の管理者会議で職員の意見を取り上げて検討し、業者の選定や駐輪場の照明設置等、運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の実力を把握しその努力や実績、勤務状況を踏まえた上で更に、やりがいや向上心アップに繋がるようにコミュニケーションをとり働きやすい環境作りに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 免許を持ってない方の不安を軽減し、安心して関わりが持てケアに活かせる様に、ホーム内や会内での勉強会や外部からの研修への積極的な参加を促しています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 外部との交流は少ないがグループホームの見学や包括支援センターの会議には参加している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の生活習慣等を面談により聞き希望要望等をケアプランに取り入れきめ細かい対応に心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初回面談で詳しく出す事は難しいが信頼関係を築いていく中で、心を開いていけるよう細かい話し合いは続けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 要望や希望はご家族からの意見が多いため生活暦や趣味の聞きだしから参考にし、対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 他愛もない会話や日々の話題などで会話を持ち、料理や一般常識で疑問に思う点など相談に乗ってもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時間は様々で頻繁に来られるご家族もいる。来所時には必ず会話する機会を多く持ち信頼関係を築きながら、本人の介護に当たっている。時には一緒に介護を手伝ってもらったりもする。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の関係を保てるようご家族と相談しながら、知人や友人との連絡は取っている。 (外部評価) 利用開始前からの友人・知人との馴染みの関係を継続する工夫として、手紙を出したり、電話をかけたり、ホームに訪ねて来てもらう等の取り組みをすすめている。以前からの趣味も引き続きできるよう支援している。ドライブを兼ねて馴染みの場所やふるさとへも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居時そのエッセに適した人材かは受け入れの一つの条件とし話し相手かかわりを持つ中で終の棲家と感じられるよう工夫している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後数ヶ月の間にその後の様子はお手紙や電話、病院訪問などで行い、迷惑にならない程度の関係を持つ	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 人間的、要介護度のばらつきにより困難ではあるが、ご家族や本人から意見を聞き希望、意向に添うように努めている。 (外部評価) 利用開始時に生活歴等について十分なアセスメントを行い、利用者の希望などを家族からも度々聞くようにしている。日頃から利用者に寄り添い、会話やふとしたしぐさからも思いを読み取るようにしている。個々の気づきを介護記録などに記録することで職員全員が情報を共有できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前、情報収集する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 毎月ユニット会議を開いて利用者さんが望まれていることや介護者としての意見を交換している。毎日の生活の場でもショートミーティング等でその時々の問題点について話し合いより良い介護を目指している。</p> <p>(外部評価) 毎月ユニット会議でモニタリングをしている。職員が担当する利用者について具体的な介護計画の案をつくり、職員全員で検討して、家族の確認を加えて3か月ごとに新たな介護計画を立てている。また、日々の記録を介護計画の評価に結びつける工夫等についても検討している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者さん別の生活記録を時間を追って記録したり話したことで、気付いた事を記録している。シフト制なので申し送りですれまでの様子を伝え次の介護に繋げる。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人が望まれることを家族にお伝えしその関係を保ちながら細かい事柄は出来る限りお手伝いするように心がけている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域でのイベント(町内運動会、盆踊り会)等に参加したり、ホーム内のイベントにご招待し交流を持ち支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回契約している管理医の訪問診療を受けていた だきホーム内での生活状況や状態をお知らせし安定した 状態が保てるよう健康状態や変化を日々報告し支援し ています。 (外部評価) ほとんどの利用者が、かかりつけ医を協力医療機関に 移行している。利用者全員が月2回の往診を受けてお り、服薬指導も同時に受けている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の生活の中で気づいたことや情報は看護職員に伝 え指示を受けるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した時はホーム内での情報を提供し、又、検査の 結果等様子は細かく連絡を取っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化したり終末期を迎えられる方においてはその終 末期のあり方についてご本人又は家族の方と話し合い 皆様の意向に添った迎え方が出来るようにしていま す。 (外部評価) 丁寧な指針をつくり、利用開始時に十分説明して了解 を得ている。また、必要時には医師を交えて家族と話 し合い、方針を共有しながら取り組んでいる。職員も 不安にならないよう話し合いや学習を繰り返し、利用 者が動揺することのないよう注意を払っている。今年 度は2人の看取りを行った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 日中は常に看護師がいるので状態に変化があれば報告、相談、対応が出来るので安心して業務に当たることが出来ます。急変時マニュアルのファイルが分かる所においてあるのでそれを見たり急変、事故があった時の対応方法を看護師から教わっています。AEDを施設に設置してもらったので安全性が高まりました。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時は地域のご協力を得られるように話し合いの元お願いしています。定期的に避難訓練も行ない日ごろから防災に関する意識を持って勤務に当たっています。 (外部評価) 消防署の指導による避難訓練を実施しており、スプリンクラーも設置している。地域の協力を得られるよう連絡網を作成しているが、具体的な協力体制については現在検討中である。	昼だけでなく夜間を想定した避難訓練を実施したり、誘導避難について具体的にシュミレーションをすることや、地域の方の参加を得ての訓練実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 同じユニット内でも病気のことなど他者に聞こえないように配慮しています。入居者の気分を害する言動は控え個人情報に関する書類も作成し対応しています。 (外部評価) 利用者の尊厳を損うことのないよう、声かけや言葉遣いには十分気をつけている。居室への入室や、入浴・排泄時等には特に配慮している。個人記録や重要書類の取扱い、機関誌に掲載する写真や個人情報にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の思いや希望はなるべく答えるよう努めています。情報の共有で計画性が生まれます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ある程度の時間のルールを守りながら個々のペースに合った生活における一日のリズムから、笑顔が見られ表情が輝きを持てるよう努めています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髭剃り、整髪、理容に気を配ったり、自立した方は身に着けたいものの好みに配慮しアドバイスや支援をしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 認知症の進行か協力は少ない。嗜好品は盛り込むよう努めている。 (外部評価) ユニットごとに好みに合わせた献立をたて、材料を前日に注文して配達してもらっている。一人ひとりの力を活かして下ごしらえや配膳、片付けなどを手伝ってもらっている。刻み・とろみ食等の方にも、メニューを意識できるよう声をかけながら一緒に食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の体調に合わせて水分補給は調節している。嚥下状態に合わせて食事の工夫をし栄養面で気を配っています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自立の方は声掛けや見守りを行い、出来ない方は毎食後、眠前、全介助で行っています。痛みや、損傷のある方は訪問歯科診療を依頼し口腔内のケアに望んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツの必要な方も出来るだけトイレ誘導に心がけてトイレでの排泄の心地よさを忘れないようにしていただく。又、オムツは個人個人にあったものを選び家族の負担を考えコスト削減を図る。	
			(外部評価) 時間を決めて声かけや誘導をして、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。利用者の状態に合った紙パンツやパットを適切に使用できるよう援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事、おやつに乳製品やイモ類、野菜を取り入れる。便秘が続けば医師に相談し下剤や、浣腸で早期に対応する。体操や、歩行リハビリも行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間は人員と事故防止で行っていないが日中は希望を聞いて行うようにしている。身体機能の低下した方は特殊機械浴を使う判断をしている。	
			(外部評価) 週に2～3回を基本としているが、個々の希望に応じて毎日でも入浴できるよう用意している。入浴時はゆっくりと気持ちを開放できるよう配慮しており、職員と本音の話ができる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 車椅子生活の中で自己表現に乏しい方に関してはその日の状態に応じて適宜休息をとっていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが服用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し飲み忘れや誤薬を防ぐことに努めています。本人の状態の経過や変化等に関する日常について情報提供し治療や服薬調整してもらっています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の暮らしが楽しみや張り合いになるように 又、昔の事とか話し相手になって自分らしく暮らせるよう一人ひとりに合った役割や楽しみごと気分転換等の支援に努める。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に添えるよう努めていますが、ご家族の協力もお願いしています。	
			(外部評価) 鯉のいる池や藤棚がある近所の公園に、希望があれば散歩に出かけている。家族の協力も得ながら全員で外出行事も実施している。季節の花を見たり、スーパーで好きなものを購入するなど、利用者の希望に添えるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 高齢になると金銭管理や日常の出納が難しくなってきました。使わなくても自分で所持できることで安心したり、買い物をする中で楽しめたりします。なくしたり落としたりせず保持できるよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ユニット内には3回線の電話がありいつでもご家族と話が出来るようにしている。職員宛のはがきやお礼の手紙などもお見せすると大変喜ばれ何度も繰り返しご覧になっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁飾り、職員持参の季節の草花などで空間を彩ったりトイレは分かりやすく掲示するなどの工夫をしている。	
			(外部評価) 建物は企業の社員寮を改造したものであるが、廊下到手摺りを取り付けて生活リハビリに活かせるよう工夫したり、狭いキッチンで調理が難しいところはサービス厨房を利用するなど、活用できる場所を有効に活かして、利用者にとって充実した日々が過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居室内で寛がれる間は定期的な巡回として一人の時間をゆっくり過ごしていただく。リビング内にはテレビを囲んで寛げる空間も工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 整理整頓は本人と一緒にし、馴染のものは持ち込んでいただく。	
			(外部評価) 写真、大切な人との思い出の品物、趣味の品、長年使ってきた物など、利用者にとって大切なものを思い思いに持ち込み、本人が居心地良く過ごせる居場所をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下や浴室、トイレには手摺を設置し安全で歩行が出来るようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院町1072-1
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居後の状態が変化してもそれに応じた対応を続けていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から7年を経過し、利用者・職員共に落ち着いた生活を楽しんでいる。利用者の3分の1が男性であることも、落ち着いた雰囲気をつくっている要素の一つと考えられる。建物の一部にデイサービスセンターを併設しており、利用者の出入りもあって開放感がある。協力医療機関から月2回の訪問診療を受けており、健康管理の面で安心感がある。また、終末期におけるケアの明確な指針と、医療機関との連携体制があり、終の棲家として信頼できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの家

(ユニット名) 花

記入者(管理者)

氏名 松田 和恵

評価完了日 平成21年 10 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 解説当時から理念があったが年数がたち見直され新しく理念ができた。職員からの案も取り入れられ決まった理念は各ユニット内に掲示してある。</p> <p>(外部評価) 平成21年度、職員全員を対象に行ったアンケートから、新たに『私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、「穏やかで安心感あふれる充実した生活」をおくる事ができるようサポートします。』というホーム独自の理念をつくり、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地元の運動会、町内盆踊り、清掃などに参加させてもらっている。すみれの家でも納涼祭やバザーを開催し楽しんでもらっている。近くの中学校の職場体験の受け入れもしている。</p> <p>(外部評価) ホームのバザーや納涼祭には近所の方に声をかけ、訪問してもらっている。自治会の組長や民生委員の協力により地域の盆踊り大会に参加した際には、夕食を一緒に食べる席を設けてもらった。中学校の演奏会や運動会にも声をかけてもらい参加している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 納涼祭、芋炊き会などを催しご家族や近所の方と一緒に食事をしたりゲームをしたりして認知症の方とふれ合い理解してもらうよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の案内状を出すのが、ご家族の参加が少ない。 催し物を兼ねて行っている。以前ターミナルの入 居者の方を例に挙げ会議をしたがその後に反省会、報 告会をすれば良かったと思われる。	
			(外部評価) バザー、夕涼み会、いもだき等のイベントに併せて開 催するなど工夫しているが、話し合いの時間が少ない ため、そこで出た意見をサービスの質の向上に反映さ せるまでには至っていない。	利用者の現状を理解してもらうことを大切にしながら、 2か月に1回の開催ごとにテーマを設定し、情報 交換を行い、利用者へのサービスの質の向上につなげ ていくことを期待したい。また、構成メンバーにも地 域のキーパーソンを加えていくことが望ましい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらっているが機会が少ない。	
			(外部評価) 書類の提出時などの機会を通じて市担当者とは顔見知 りの関係にあるが、相談や情報交換は主に運営法人を 通じて行っており、良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない理由は職員が理解し実践している。 どうしても必要な入居者においては家族にも説明し文 書にて承諾を得ている。	
			(外部評価) 身体拘束にあたる具体的な行為について十分認識して おり、勉強会も行っており共有している。ベッドから転倒 する危険性があると思われる場合には、ミーティング で検討し、家族の同意を得た上で時間や期間を決めて ベッド柵を使用するなど、状況に合わせた支援に努め ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強する機会が少ない。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会などに参加している。今現在は必要とされていないため活用はしていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の前には見学をしてもらったり、入居希望者に管理者、ユニット長が面会し十分な説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来所された折ご家族と話す機会を設け家族の意向や希望を聞き添えるように努めている。 (外部評価) 家族の来訪時には積極的に声をかけたり、運営推進会議や家族アンケートなどで希望を聞き取るようにしている。毎月家族等に手紙を出すことで、意見や要望を気軽に言いやすい信頼関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の目の付きやすい所に目安箱を設け設置し意見や要望を記入し入れてもらうようにしている。 (外部評価) 月2回の管理者会議で職員の意見を取り上げて検討し、業者の選定や駐輪場の照明設置等、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務年数により有給休暇の日数が増えたりして開設時より少しずつ改善されつつある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 講演会やセミナーのパンフレットを各ユニットに配布し参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) すみれ会の各事業所内にて勉強会がある時には参加させてもらったり、話す機会は少ないがある。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時本人の希望を一番に考え一つ一つ要望に添えるよう説明し、安心して生活が送れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時にもご家族や本人からの要望を聞いているが、入居後も頻繁にご家族に連絡をしたり面会時に細かい事でも話し合うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の状態を保てるように努め、状態が悪化すればそれに応じて専門医受診などを勧めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で会話や仕草などで本人の思いを見極められるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 請求書発行時に近況を報告するが面会が少ない時には電話をし本人と話してもらったり手紙を書いて本人に渡せるように家族に伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前から使用していた家具、寝具は持ち込んでもらい同じように使用してもらっている。家族以外の知り合いの方が面会に来られる時もあり、居室内でゆっくり過ごせるよう椅子、お茶などを用意している。 (外部評価) 利用開始前からの友人・知人との馴染みの関係を継続する工夫として、手紙を出したり、電話をかけたり、ホームに訪ねて来てもらう等の取り組みをすすめている。以前からの趣味も引き続きできるよう支援している。ドライブを兼ねて馴染みの場所やふるさとへも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握した上でプライバシーを尊重し、利用者同士の関わり合いに支援できるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡による退去以外では情報提供書を作成しこれまでの本人状況や好み生活習慣を詳細に伝えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職の好みに応じメニューを変更したり起床時間を決めないなど日々の生活に満足していただけるようにしている。 (外部評価) 利用開始時に生活歴等について十分なアセスメントを行い、利用者の希望などを家族からも度々聞くようにしている。日頃から利用者寄り添い、会話やふとしたしぐさからも思いを読み取るようにしている。個々の気づきを介護記録などに記録することで職員全員が情報を共有できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前、後も本人やご家族から話を聞き大きな変化はないように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方に合わせた支援を職員一人ひとりが行えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に一度ユニット内の職員を集め入居者一人ひとりについて話し合い意見を出し合って介護計画を立てている。 (外部評価) 毎月ユニット会議でモニタリングをしている。職員が担当する利用者について具体的な介護計画の案をつくり、職員全員で検討して、家族の確認を加えて3か月ごとに新たな介護計画を立てている。また、日々の記録を介護計画の評価に結びつける工夫等についても検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は介護記録に記入し特に日々と違った行動や言動は詳しく記入するようにしている。三ヶ月毎にケアプランを作成し、一ヶ月毎に見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者一人ひとりの状態に合わせて対応している。又、状況が変化しても柔軟に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 本人が髪の毛を切りたい、パーマをかけたいと希望があれば近くのパーマ屋へ出かけたり近くの中学校の職場体験の受け入れをし、一緒に過ごせる時間を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 基本的には病院受診はご家族が同行するようになって いるが、スムーズには行っていないため提携医に行こ うするほうが多い。提携医に職員が同行し受診してい る。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が、かかりつけ医を協力医療機関に 移行している。利用者全員が月2回の往診を受けてお り、服薬指導も同時に受けている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日々の生活の中で異常があれば看護職員に相談し提携 医に連絡したり病院受診に同行している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院後定期的に様子を見に行ったり担当医や看護師と 情報交換する場を設けている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ターミナルケアに取り組んでいる。職員間で話し合っ たことなど家族にも説明している。</p> <p>(外部評価) 丁寧な指針をつくり、利用開始時に十分説明して了解 を得ている。また、必要時には医師を交えて家族と話 し合い、方針を共有しながら取り組んでいる。職員も 不安にならないよう話し合いや学習を繰り返し、利用 者が動揺することのないよう注意を払っている。今年 度は2人の看取りを行った。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 知識はあっても訓練や実践する機会がなく不安である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は行なっているが回数が少なく不安である。 (外部評価) 消防署の指導による避難訓練を実施しており、スプリンクラーも設置している。地域の協力を得られるよう連絡網を作成しているが、具体的な協力体制については現在検討中である。	昼だけでなく夜間を想定した避難訓練を実施したり、誘導避難について具体的にシミュレーションをすることや、地域の方の参加を得ての訓練実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 月に一度エイト会議で話し合い心ある声掛けをするようにしている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損うことのないよう、声かけや言葉遣いには十分気をつけている。居室への入室や、入浴・排泄時等には特に配慮している。個人記録や重要書類の取扱い、機関誌に掲載する写真や個人情報にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴、食事内容、起床時間など本人が希望を表せるような声かけに心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に添えるようその日のスタッフと話し合い努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日関わった職員によって身だしなみやおしゃれに気を使い支援に心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 殆どの方が介護認定3以上のため手伝いは難しい。 (外部評価) ユニットごとに好みに合わせた献立をたて、材料を前日に注文して配達してもらっている。一人ひとりの力を活かして下ごしらえや配膳、片付けなどを手伝ってもらっている。刻み・とろみ食等の方にも、メニューを意識できるよう声をかけながら一緒に食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 前日の介護記録を見ながら水分量、栄養バランスのチェックをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来ない方は職員が口腔ケアを行い出来る方は見守り、不足部分をケアしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとり一日の表を作成し排泄パターンを考えトイレでの自立支援を行っている。	
			(外部評価) 時間を決めて声かけや誘導をして、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。利用者の状態に合った紙パンツやパットを適切に使用できるよう援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の予防と対応は出来ている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望にあわせ行えている。	
			(外部評価) 週に2～3回を基本としているが、個々の希望に応じて毎日でも入浴できるよう用意している。入浴時はゆっくりと気持ちを開放できるよう配慮しており、職員と本音の話ができる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々に合わせて安眠や休息の支援は出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は必要時に職員が手渡し服用してもらっている。変化があれば提携医や受診している病院に連絡し指示を仰いでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 季節のイベント(誕生会、クリスマス会)には食べ物の希望を聞き食事を用意したり、ドライブ、散歩なども行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ユニット内全員でお出かけ(ドライブなど)したり近所のスーパーまで買い物や散歩などは個別に対応している。	
			(外部評価) 鯉のいる池や藤棚がある近所の公園に、希望があれば散歩に出かけている。家族の協力も得ながら全員で外出行事も実施している。季節の花を見たり、スーパーで好きなものを購入するなど、利用者の希望に添えるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる人は自由に使っている。自己管理が難しい人は職員が預かり本人の希望する物を購入するようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者から希望があれば電話はかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 職員もリビング内で温度やテレビの音量、職員の声のトーンなど気を配るようにしている。</p> <p>(外部評価) 建物は企業の社員寮を改造したものであるが、廊下到手摺りを取り付けて生活リハビリに活かせるよう工夫したり、狭いキッチンで調理が難しいところはデイサービスの厨房を利用するなど、活用できる場所を有効に活かして、利用者にとって充実した日々が過ごせるよう配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食事をする椅子とは別にソファを一つ持ち込んでもらっている。スペースが狭いため他に用意できない。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時には使い慣れた家具、寝具を持ち込んでもらっている。又、食事の時も箸や茶碗など各自用意してもらっている。</p> <p>(外部評価) 写真、大切な人との思い出の品物、趣味の品、長年使ってきた物など、利用者にとって大切なものを思い思いに持ち込み、本人が居心地良く過ごせる居場所をつくっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内にはトイレ、浴室など目線の位置に案内表示している。居室内には入居者の状態に合わせて手摺を付けている。</p>	